

2015年10月5日

萩ジオパーク推協だより

No. 4

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/12>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

笠山と世界遺産を”ジオ”な視点でめぐる、モニターツアーを開催しました！

報告：萩市地域おこし協力隊員 河津梨香 萩市国際交流員 オティリアー・スティーヴェンス

ガイドを目指す市民や研究者など、17名が参加したモニターツアーが、9月14日（月）に行われました。「車で行ける火山博物館『笠山』と世界遺産で見る火山と人の関わり」をテーマに巡りました。笠山は、50余りある阿武火山群のうち、最年少の活火山ですが、噴火したのは約1万年も前。火口では赤い色をしたスコリア（軽石噴出物）層を見学し、展望台からは萩六島の絶景を見ながら、萩の成り立ち1億年を感じました。虎ヶ崎に下りると、城下町づくりの土台となった安山岩の切り出し跡が残っており、当時の石工職人の刻印も発見しました。続いて立ち寄った所が、世界遺産の萩反射炉。外壁に安山岩が使用されていると知り、参加者一同驚きの声。1万年前から現代までをたどり、萩の町を育んだジオの偉大さに圧倒されました。（河津梨香）



(安山岩の石切場跡の見学)

今回の萩ジオパークウォーキングツアーに参加させていただき、ありがとうございました。半日の研修でしたが、大変良い経験でした。私は外に出ることが好きなので、萩にジオパークがあるのはすばらしいことだと思います。萩ジオパークに関するパンフレットやガイドなどはとても良く出来ていて、見るだけで行きたくなります。説明も沢山書いてあり、私のように科学的な知識が不足している者にも、分かりやすく書いてありました。さらに、萩市の歴史にも深い関係があり、江戸時代の絵巻物に描かれている笠山が、今と変わっていない状態に見えるのは、とても興味深い事でした。萩市は歴史的な観光スポットとして色々なものがあり、また、ジオパークは自分の足で探索ができるので、とても魅力的だと思います。ガイドさんの説明はとても興味深く、分かりやすかったです。ガイドさんの熱心な説明で、私はとても興味をもてました。また、とても良かったことは、火山や地質学に詳しい学者が何人かいたことです。萩市からジオパークまでのバスルートが、既に出来ているかどうか分かりませんが、私はハイキングが好きなので、市内からバスで行き、歩くことが出来れば、もっと人気になると思います。ジオパークの色々な場所をつなげて、山歩きに使用するようなウォーキングマップみたいなものがあれば、それもいいと思います。今回は、とてもいい経験ができました。もう少し工夫をすれば、とても人気のあるハイキングスポットになると思います。（オティリアー）



(火口の中で堆積したスコリアの見学)

青少年のための科学の祭典 9/27(日)に

ジオパーク推進室から2つのブースを出展

9月27日（日）、第15回青少年のための科学の祭典萩大会が開催されました。この日を楽しみにしていた小学生や親子連れが、開会前から会場の明倫小体育館に集まりました。この科学の祭典は、子どもたちに自然の不思議さや科学の楽しさを体験してもらおうと、小・中学校の先生方が、自主的に



(弁当パックで3D地形模型づくり)

始めたものです。今では高校や企業の方も参加する実行委員会が運営しています。今年は 25 のブースが出展し、前日からの科学作品展見学者も含めて、約 1300 名の参加者がありました。ジオ推進室は、「弁当パックで 3D 地形模型」、「プラスチック粘土で作る化石のレプリカ」作りの 2 つのブースを出しました。子どもたちは、楽しさいっぱいに取り組んでいました。

教育現場で進むジオパークへの取組～市教委、学校、科学作品展～

ジオパークに対する取組が、教育委員会や小・中学校でもさまざまに進んでいます。昨年度から教育委員会では、市内の小中学校の先生方による、現場で活用できる指導資料の作成に取り組んでいます。特に、理科の教科に活用できる資料として、火山や地形、地質・岩石、災害などに焦点を当てています。各小中学校では、総合的な学習や行事、ふるさと学習などで実践がみられます。越ヶ浜小は笠山の自慢を、弥富小はふるさと自慢を、それぞれ地域外の人にガイドができるようにと学習を進めています。須佐中や萩東中は公開講座としてジオパークに関する講座を設けています。また、教育委員会では、新任の先生向けに開講している萩塾の中で、萩の歴史と併せてジオパークに関する勉強や事例研究を取り入れています。子どもたちに関しては、先日開催された夏休み科学作品展で、萩の自然やジオパークを題材にした研究が多くありました。タイトルを紹介してみます。「地球のかげら」（明倫小）、「地球の大研究」（明倫小）、「川原の石を調べよう」（椿東小）、「揺れに強くするには!! 地震に強い建物の研究」（越ヶ浜小）、「萩地方のジオパークを学ぶ」（萩西中）、「お寺は石の展示場」（萩西中）など。子どもらしい視点をもとにした、ジオへの取組と考えられます。今後、教育現場での多様な取組の中で、さらにジオパークの意識が高まっていくことが期待されます。



(鍋山石でつくられた灯籠)

コラム 「地質」だけじゃない！？ 事務局長 福島康行

APGN (アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム) 2015 最終日のジオパーク講座「地域資源としてのジオパークの活用」における、ランカウイジオパーク (マレーシア) のジオガイド オスマン・ビン・アイブさんのお話から。

「ジオツーリズムは様々な要素があり、私は「GEO」の「G」は Geology (地質学的な情報)、「E」は Ecology (生態学的な情報)、「O」は Organization (ここでは人・文化の意味) と考えている。Geology と言っても岩石や化石などに限らず、美しい景観を楽しんでいただくことが大切。忘れてならないのが Ecology で、その中では植物や野生動物の紹介は不可欠。そして、「人」。Geology や Ecology を踏まえ、そこで人間がどうやって日々の生活を営み、文化を育んできたかを知っていただくことが大切」といった主旨で、ジオパークの役割について説明されました。オスマンさんは、ランカウイのガイドを始めて 19 年。最初はネイチャーガイドとして、その後エコガイド、ジオガイドとして実績をお持ちの方です。

実はこのような考え方は、現在のジオパークでは主流。ジオパークで語られるジオストーリーは、「地形や地質、土壌、生態系、水環境、文化、歴史など様々な事柄のつながりを示した物語」と言われています。10月8日(木)(須佐公民館、18:30~20:00)、9日(金)

(萩博物館、13:30~15:00) に徳山大学の柚洞一央先生をお迎えして開催予定のジオ講座「ジオパーク=地球・人・文化」では、こうしたお話もうかがえると思います。たくさんの参加をお待ちしています。



(APGN 2015 シンポジウム基調講演)



(田万川の海岸に自生するハマベノギク

*山口県絶滅危惧II類指定)